



南郷

札幌市立南郷小学校 学校だより 第10号

令和7年12月25日

【学校電話】011-861-9305

【学校ホームページ】

<https://www.nango-e.sapporo-c.ed.jp/>

子どものためにすべきこと

～ 私は困ったことがあるとお腹の痛くなる子でした～

校長 関根 治彦

私は困ったことや嫌なことがあると、お腹の痛くなる子でした。そのため、学校の先生になり、クラスで担任をしている時、「〇〇君は、困ったことがあるとお腹が痛いと言ったよ、先生。」という子がいると「本当にお腹が痛くなるんだよ。そう決めつけてはいけない。」とよく話していました。

中学生の時、テストが近くなると腹痛が続く、腹を下すということが繰り返されました。両親は子どもの頃からお世話になっている小児科の南雲先生のところ連れて行ってくれました。そして、直腸検査やいろいろな検査をしました。その結果、南雲先生は私にこう話してくれたことを今でもはっきり憶えています。

「いろいろ検査をしたけれど、どこにも病気はない。治彦、おまえは、困ったことや嫌なことがあるとお腹が痛くなるというそういう体なんだ。おまえは自分の体と仲良くしていかなければならない。どうしたら、お腹が痛くならないかを考えて行動しなければならない。」と、おっしゃいました。

大好きだった南雲先生にきつくそう言われた時はショックを受けましたが、それはその通りだと思います。困ったことが起きないように事前に準備したり、考えたりするようにしました。(今では立派な大人になりましたと言えば、ハッピーエンドとなるのですが…)。そして、現在に至ります。

話は変わりますが、1年生を担当している時に、Aさんという男の子がいました。いろいろな子に積極的に声を掛けていくリーダー的な存在の子でした。Aさんは入学前からいろいろな習い事に通っていました。その中で不思議だったのは、水泳教室は総合スポーツクラブで、体操は区の体育館の教室なのです。総合スポーツクラブには体操教室もあるのに、わざわざ区の体育館の教室に通っていました。私は1学期の個人懇談の折に、お母さんにその理由を尋ねてみました。

「うちの子はとても人見知りで、慣れるのにとても時間が掛かるんです。だから敢えて、いろいろな人と関わるように教室を変えているんです。別に〇〇クラブの体操教室が嫌というわけではないんです。この夏休みには野外活動研究会のキャンプに行かせようと思っています。ところで、教室ではどうですか、泣いたり、固まったりして、ご迷惑を掛けてはいないでしょうか？」

お母さんの話を聞いていると、どの習い事も通い始めの時には泣いて嫌がったそうですが、心を鬼にして置いてきた。そのうちに喜々として通うようになった。何回も繰り返しているうちに、新しいところに連れて行っても、すぐに慣れるようになったとお話しされていました。

子どもにはいろいろな特性があります。得意なこともあれば苦手なこともあります。それをありのままに受け止め、「どうしてあげることがこの子を伸ばすことになるのだろう。」と考えることが重要です。ただ、その手だてが、その子にとって適切であるかどうかを見極めることは非常に難しいことでもあります。一人で悩まずにいろいろな人たちから話を聞くことも大切ではないでしょうか？

南雲先生とAさんのお母さんがダブってしまうのは私だけではないと思います。